

# 2015 年度

# 長期インターンシップ

# 評価と効果

## ■サンデン環境みらい財団

栗原史寛（情報・経営コース3年）

## ■司建設株式会社（エアームーブ住宅）

大川佳澄（心理・人間文化コース2年）

吉田智香（心理・人間文化コース2年）

## ■前橋市政策部政策推進課

藤田真衣（情報・経営コース2年）

## ■前橋市児童文化センター

矢内綾奈（情報・経営コース2年）

研修期間：2015年10月5日～2016年1月26日

共愛学園前橋国際大学 COC 事務局

## 学びを自己評価する

今回のインターンシップでは、あらかじめ用意した評価項目に沿って学びを評価するのではなく、学生が自らの体験を通して気付いたこと、感じ取ったことを評価としてまとめた。インターンシップ終了後にグループワークを行い、課題や成果を共有し、学生自身が振り返ることで当事者としての自覚を持たせ、次のステップへ進めるようにした。学生の自己評価は下記のようなものである。

### ■ よい人間関係をつくる力

- ・人と接する時、挨拶、言葉づかい等、相手にとって気持ちのよい対応ができること。
- ・目上の方と関わるときの言葉遣いに配慮すること。
- ・人それぞれ性格は異なるため聞き手に合わせた話し方をする。
- ・「おはようございます」で始まり「お疲れ様」で終わる。お互いいい気持ち・笑顔になり、会話のきっかけとなること。

### ■ 自分の意見を積極的に相手に伝える力

- ・人の意見を理解しようという姿勢が大切。
- ・自分の考えがまとまっていなくても途中で考えを伝えることが大切
- ・どんな小さなことでも報告・連絡・相談すること。
- ・自分の進捗状況をこまめに報告する。
- ・自分を知ってもらうために想像力や柔軟性が必要。

### ■ 主体的な行動力

- ・自分から必要だと思うことを見つけ出し、計画し取り組んだり勉強したりする。
- ・仕事を頼まれた時、手助けが必要としたとき「やります」と積極的に仕事を引き受けること。
- ・分からないことはまず自分から調べる努力をする情報収集能力が大切。

### ■ 単調な作業でも最後までやりきる力

- ・単純な作業でも仕事をやりきることは大切である。
- ・自分のやりたいことだけではない。
- ・単純な作業の中にも学ぶことは多い。
- ・長時間仕事をしていると集中力がもたない。時間を決めてONとOFの切り替え、メリハリをつける。

### ■ リーダーシップ力

- ・みんなをまとめて目標に向かって取り組んでいくようなリーダーシップが大切。
- ・自分の仕事がある中でも人の考えを聞き取るとともに自分の考えを相手にいかに伝えていくかという説得力や発信力が大切。

### ■ 自分が知らない、できないことが分かる

- ・圧倒的に知らないこと、経験したことのないことがあることが分かった。
- ・お客様にアドバイスするのでしっかりと知識を持つておくことが大切、常に勉強が大切。
- ・できないこと、分からないことを知った。
- ・自分のレベルに合わせた業務を行う。

### ■ 目標設定能力

- ・目の前にある仕事に自分で目標設定することは大切。
- ・目標がないと、モチベーションが下がるとともに、どの程度やればよいのか分からない。
- ・決められた時間の中で何を優先していくか計画を立てて取り組んでいくことが大切。
- ・同じ間違いを繰り返さない、冷静な判断と解決策を素早く見つけること。

### ■ 皆で協力して成し遂げる力

- ・自分だけの考えでなく組織として考えをまとめていくことが大切。
- ・様々な職種の方々と同じ目標に向けて協力する。
- ・ファイル保管など、些細な事でも周りの人が見やすく働きやすいように環境を整えることが大切。
- ・自分の考えと違うことを発見することで新たな考え方ができ成長することができる。

### ■ 相手の身になって考えること

- ・サービスとは相手の幸せを願い、それを叶えるために必死に取り組むこと。
- ・自分の考え方と同時に、子供や市民の視点も考えて行動するようになったこと。
- ・来客が困っている時、素早く声をかけ案内する。

学生自ら自己評価を行うことを通して、評価の視点が豊かになるとともに今後の学習活動等の中で到達目標の基準の向上が期待されるなど、充実した大学生活を過ごしていく上での指針として活かされていくと考える

学外でのインターンシップの体験研修を通して、大学で学ぶことの意義や価値を見いだしたり大学生活の在り方を見つめ直したりするとともに勤労の意味や自己有用感など将来に向けてのライフステージを考えるきっかけとなったと考える。

## 教育的な効果

### ■意識の変化

今回のインターンシップに参加する前と後では学生の意識に変化みられた。以下、学生のアンケート調査から紹介する。

#### ○日々の記録や日記をつけ、自己を振り返るようになった

- ・いつでもメモが出来るようにポケットにメモ帳とボールペンを入れるようになった
- ・報告と連絡は相手に伝わるように頭の中で考えて言葉を選ぶようになった

#### ○規則正しい生活を送るようになった

- ・ある程度決まった生活をしているので早寝早起きができるようになった
- ・自宅から勤務先まで交通機関等を活用するため運動量が増えた

#### ○対人関係に気をつけるようになった

- ・あいさつ、返事、声の大きさ。敬語、社会人として当たり前な事を今まで以上に気を付け、心がけるようになった
- ・いろいろな人に感謝の気持ちを持つようになり、目上の人を敬うようになった

#### ○時間を気にするようになった

- ・集合時間などいつもぎりぎりだったが余裕をもって行動するようになった
- ・インターンシップと学校、アルバイト等、スケジュールを管理するようになった
- ・5分前行動、次の準備をしっかりと余裕を持って行動するようになった

#### ○政治や経済・教育など、社会の事象に関心を持つようになった

- ・前橋市に限らず人口問題に興味を持ち、それに関連する本を読むようになった
- ・月2回発行される「広報まえばし」を読むようになった

#### ○興味・関心に応じた情報収集や検索時間が増えるようになった

- ・自分には出来ないだろうと思ったことも、手段を考えて挑戦するようになり、安易に屈することがなくなった

### ◎職業観、地域志向の高まり

日常生活の中でメモや記録等、備忘録を取ることで自分だけのことでなく、常に相手に迷惑をかけないようにしようとする態度や意識の重要さに気付くことができたと考えられる。時間を守ることはいうまでもないが時間の大切さや時間を有効に活用しようとする態度に意識の変化があった。

このように将来の就職活動に備えて、企業・役所等で実際に仕事をしながら、社会に出るためのビジネスマナー、ビジネススキル、ビジネスマインドを学ぶことができた。さらに研修先から提示されるテーマや課題等に取り組むことで、地域志向の気持ちも高まってきたと考えられる。

### ◎大学で学ぶことを見つめ直す

インターンシップを通じて大学で学ぶことの意義を見つめ直すことが出来たのではないかと考える。興味や関心のあることに対してインターネットや図書館で調べたりするなど学ぶ意識に変化が見られた。研修先での仕事内容に関連する情報の収集や検索に時間をかけるなど学ぶ時間も増加したことが分かる。このことが大学に関わる学習時間の増加にもよい影響を与えるのではないかと考える。

#### ・大学での学び方、学ぶ態度の気付き

大学で学んでいる専門分野のことについてさらに深く学ぼうとする姿勢やどのように学んで行くのか等、学び方、アクティブラーニングについて気付くことが出来た。そのためには集中力や忍耐力、何事にも積極的に取り組む主体性や日々努力することの重要性等を身をもって学ぶことが出来たと思う。

#### ・大学での学びと社会での学びの接続の気付き

大学の講義や実習で学んでいることが社会へ出てどう活かされ、関係しているのか考えるきっかけとなると共に学んでいることが役に立っていることに気付くことができた。大学と社会との繋がりを考え意識して学んで行くことでより充実した大学生活を送ることが出来るようになる。

#### ・コミュニケーションの重要性の気付き

物事を推進するには協働が大切であり、そのためには自他の考えを伝えたり受け入

れたりするなどして信頼関係を深めることが重要であることに気付くことが出来た。自分の考えをしっかりと持ち、分かりやすく伝えていくことで主体的な学習がより深く進められていくものと考えてる。

## 学 生 の 声

### ■栗原史寛（情報・経営コース3年）

#### ●長期インターンシップに参加した動機・きっかけ

インターンシップに参加した動機は、大学2年生の終わりに**今後の大学生活や将来について悩んでいた時、人生に必要なスキルを得るにはどのようにすれば良いか**考えた結果、今回の長期インターンシップの挑戦に繋がりました。自分は考えを伝える事が苦手で、一人で行動することが多く、「**社会に出てこのコミュニケーション能力で良いのか。**」「**周囲に迷惑をかけてしまうのではないかと感じこの自分の考えを伝えるというスキルを伸ばしたい**と思ったのが動機になっています。また今後の大学生活の中で今まで培ってきた何事にも挑戦する気持ちを持ち続けたいと感じており、長期インターンシップに参加することで**さらに挑戦する気持ちの成長を実感できるのではないかと感じた**からです。



#### ●インターンシップに参加して得られた気づき、経験したこと

職場の上司との交流で、**仕事場での言葉遣い・マナーを学びました**。職場ではメール（Outlook）を用い、実際に社会人の方との意見交換や業務連絡を学びました。また、人と対話をするときは発声を強くし、しっかりと自分の話や考えを相手に聞きとってもらえるように心がけました。**挨拶や声をしっかりとすることで、自然と仕事にも集中できる様になった**と思います。さらに目標をしっかりと持って取り組むことにより、結果の成功、失敗に関わらず**自分のスキルが確実に向上している事**が分かりました。しかし、自分から仕事を見つけ出して取り組むことには今一步踏み出すことができませんでした。どちらかというと、上司の方かたら頼まれた事をしている時の方が多かったように思います。しかしインターン前に比べれば、自分からやるべき仕事や大切なことに気付く事は多くなっていったのではないかと思います。

自分に知識がなく、業務が止まってしまう事も何回もありました。最初は分からないことを聞くことが恥ずかしく聞きづらかったですが、**業務に支障が出たり迷惑をかけた**りする前に**すぐに上司や先輩に聞くことの重要性を感じました**。さらに教えていただいた事はしっかりとメモし、**次回に聞き返す事のないように徹底していくことの大切さを学びました**。自分の考えを相手に分かるように伝えることは、自分に最も足りないスキルだとインターンシップを通して分かりました。自分は言い回しが多く、相手に何を伝えたいのか理解してもらえない事が多かったのではないかと思います。今後は**何を伝えたいのか、何を言いたいのかをポイントを押さえて分かりやすく伝えるよう徹底していき**たいと思います。自分は比較的忍耐力は強く、どのような仕事でも我慢強く取り組んでいける性格ではないかと思います。そのような長所を活かしながら**組織の一員として皆で協働して仕事を成し遂げていく重要さを学ぶ事が出来ました**。上司の方や、先輩の皆様には色々な面でご迷惑をおかけしたことと思いますが自分にとっては多くのことを学ぶ事ができた貴重な4ヶ月でした。学んだことをもとに、今後の大学生活の充実を図るために頑張っていきたいと思います。

### ●長期インターンシップに参加した動機・きっかけ

私がこの長期インターンシップに参加した理由は、「**変わりたかった**」からということが正直なところでは、自分なりに大学生を楽しんでいると思っていました。しかし、やりたいこと、心からやってみたいことがなくて、それがなぜなんだろうとか考えることもなく、大学1年生が過ぎてしまい、とうとう2年生の夏休みが終わりを迎え、成人式が当たり前のよう過ぎていくのではないかと思うと、もったいなく感じ、**何か自分の手で変化を起こしたい**と考えたときに、**友達に誘われたのが、この長期インターンシップでした**。大学1年2年の長期休みのときに、リゾートバイトへ行き、そこで、お金を稼ぎながら、ホテル、アドベンチャーランドなど、色々なところで、色々な大人の仕事を見てきました。しかし、自分が将来働く場所は、アルバイトではない、ホテル、アドベンチャーランド、飲食店、運送業社ではないということ考えたときに、**日本の企業ってどんなことしているの**だろうとか、**興味がわいてきました**。一番の決め手は、将来何になりたいとか明確に決まっていないう大学生の将来に、必ず通らなければならない道に、踏み入れてもらえる企業があるということ、本来ならば、経験できない、**授業と企業を同時進行で過ごす日々**、これは、一生の思い出以上のものになることは確信していました。



### ●インターンシップに参加して得られた気づき、経験したこと

インターンシップに参加して気づかせてもらえて良かったなと思ったのは、時の儚さだと思います。それは、この4ヶ月とても早くても何もかも初めてのことで不安もあったのですが、毎日学ぶことがありすぎて、日報では納めきれない日もありました。20歳になったからそう感じているだけなのかもしれませんが、自分の年齢を意識するようになりました。そんなこと今まではありませんでした。しかし、自己紹介カードを作って、指導役の中村部長に確認をもらうとき、「**若さが足りない**」と言われました。**若さってなんだろう。私らしさってなんだろう。とか考えて何度やり直しをして、アドバイスをもらい、やっと形になったとき、嬉しかったです**。そのときに、10代でいるのは、このあと数ヶ月しかない、この数ヶ月10代として何かやり残したことはないかなとか考えている間に10代も終わりました。営業所でも、年齢は最初誰にでも聞かれて、私の周りに年齢を聞く人はいなかったの、とても驚きましたが、**社会人になり、人と関わる仕事となると、視覚的情報から色々なことを読み取ることが重要になります**。見られるということ意識しているのだと感じました。目上の人に対しての態度も変わりました、自分よりも、10年も20年も生きている人に対してとるべき態度、敬意は、とても大切なものだということも改めて感じました。そして、何と言っても「エアムーブ住宅」の一から家が建つまでを、自分の目で知ることが出来たことや、家を建てることの素晴らしさ、人生のなかで家を建てるということがどれだけ重要なことなのか、**家を建てることから将来を考えることがどれだけ重要なのか**。今までの自分なら、**大学時代に考えなかったであろう事を、考えるようになりました**。将来を考えることも重要ですが、親のお陰で大学に入学させてもらいました。この気持ちを忘れずに、大学生として、1日1日1分1秒大切に過ごすこと、自分のなりたい自分に一歩でも近づけるよう楽しみながら日々を心がけるようにしたいです。





### ●長期インターンシップに参加した動機・きっかけ

私が長期インターンシップに参加しようと思った動機は、今の大学生活に満足していなかったこと、自分の将来への不安、そして自分自身を変えたいと思ったからです。大学生は先生、学校からの縛りがなく自由です。そのため、自分自身の力で行動に移し、取り組んでいかなければ、無駄な4年間の大学生活を過ごすこととなります。私はそのことを十分に理解していたが、夢も将来も具体的に決まっていなかった私は何をしたいか全く分かりませんでした。そして、人前に出ること、自分の考えを言葉にすることが苦手で、積極性がない私はやりたいと思ったことに対して1歩を踏み出すことがなかなかできませんでした。そんなとき、受講していた講義で長期インターンシップの説明を受けました。自分を变えるチャンスだと思いました。社会に出る前に実際に働いて、直接自分の目で見て、学び、ビジネスマナー・スキルを身に付け、今の自分が社会でどこまで通用するか知りたいと思いました。そこから、自分の弱みを知り、強みに変えていこうと思いました。少しでもこれからの自分の目標や将来を明確にできたらと考えたからです。

### ●インターンシップに参加して得られた気づき、経験したこと

4か月間、様々な部署の、多くの業務をやらせていただき、たくさんの経験をさせていただきました。初めは、「エアムーブ住宅」という会社の名前すら知らず、どんな会社で具体的に何をしているか、全く知らない状態で、インターンシップが始まりました。会社の1日の始まりは朝礼から始まります。企業理念、行動目標を全員一緒に唱え「職場の教養」を読んで、感想を述べるといったことを行っています。1日の始まりに、会社全体が同じ事をして1つにまとまるという団結力、自分の意見をしっかりと持ち、言葉にする大切さを感じました。ここで行っていることが、接客や仕事に対する姿勢につながっているのかなと思いました。DM 発送、書類の作成、ファイルの整理、カレンダー発送の準備など事務仕事をやりながら、現場に連れて行っていただいたり、お客様に直接かかわったり、イベントの準備から当日まで携わらせていただきました。事務仕事は決して目立つ仕事ではないけれど、営業の方だけでは手に負えない家づくりを検討されている方や、今までお世話になったオーナー様のために、そして会社で働く全ての人が働きやすい、より良い環境を作り、支えているのだと感じました。常に周りを見て、細かいところの気付き、気遣いをしているのを間近で見っていたので、このような社会人になりたいと強く思いました。また、営業の方と現場見学会、セミナーなどに参加させていただき、インターンシップで1番大切だと思った気付きは、「人とのつながり」でした。そのつながりをより良い関係で保つために、社会人として当たり前な挨拶やマナーがあること。多くの同僚、上司、協力会社と助け合い、支え合い、意見を出し合うためにコミュニケーションが大切だということ。相手を待つだけでなく、自分から進んで、取り組んでいく姿勢。自分の仕事に誇りを持ち、お客様を思う気持ちを常に持つこと。人とのつながりがなくなってしまうと、仕事はなくなってしまうと感じました。だからこそ、コミュニケーション能力は高めるべきだし、知識を深めるために勉強は必要だということを経験を通して学びました。

## ■ 藤田真衣（情報・経営コース2年）

### ● 長期インターンシップに参加した動機・きっかけ

私は将来、市役所で働きたいと考えています。市役所で働くことで最も**地域社会に寄り添い、市民の要望を多く取り入れた街づくり**をしていきたいと思えます。街づくりといっても医療や福祉、子育て、健康、教育、産業振興、環境、都市計画など、数多くの仕事があります。この中で近年、前橋市が力を入れているものとして医療が挙げられます。**前橋市は医療機関が非常に充実しており、市民が健康でいきいきと暮らせる「安全・安心・快適な街づくり」を目指して「まえばし健康医療都市構想」を推進しています。**

私が希望した研修先（政策推進課）では上記の他、子育てがしやすい街づくりの企画や都市計画の決定など市役所の中核とっていいほど幅広い様々な業務を行っています。私は、**市の職員の方々が実際に働く現場で実習することにより、市役所の雰囲気**を体感し、**公務員としての心得や仕事の意義等の行動指針**を学びたいと考えます。



### ● インターンシップに参加して得られた気づき、経験したこと

今回たくさんの貴重な体験をさせていただきましたが、その中で特に印象深かったのは、**有識者会議を傍聴させていただいたこと**です。有識者会議とは**経済界、学界、マスコミ、関連団体など多様な分野を代表する識者が選ばれ、幅広い観点から議題について検討するものです**。その会議の中で、日本の総人口は2060年までに現在の半分ほど減少するという報告がありました。人口減少は日々の生活においては実感しづらいもので、多くの方はその危機感を分かっていません。私自身、その現状を全く把握していませんでした。以上のことを受けて、**自分なりにどうすれば前橋の人口減少を食い止める事ができるのかと考えるようにもなりました**。4ヶ月間、研修をしてきて人口問題については一番の収穫であったと思えます。

平成27年6月に公職選挙法等の一部が改正され、選挙権年齢が「満18歳以上」に引き下げられました。それに伴い、**小中学校・高校で模擬選挙を実施することとなりました**。その中で私が担当した業務は、**学校の周辺に作ってもらいたいと思う施設を一から企画し、選挙公報や演説原稿を作成し、当日は立候補者演説や開票作業を行いました**。私自身、今年から選挙権が与えられたわけで、選挙制度や選挙を行う意義、選挙当日の流れ等については全く知りませんでした。**今回、模擬選挙に携わり選挙の仕組みを深く学ぶことができました**。また一般の人でも知らないことも知り得ることができました。

私はインターンシップ期間中、政策推進課と選挙管理委員会事務局で研修することができました。双方を体験したことにより、**課によって雰囲気が異なり、市役所の仕事というデスクワーク中心、事務的というイメージ通りの課もあれば、様々なところへ出向き、たくさんの市民の方々と触れ合う機会が多い課もあるということを知りました**。私が体験してきたこと全てが大きな財産となり、大学で学ぶだけでなく**実際に体験し肌で感じる**ことができ嬉しく思いました。

## ■矢内綾奈（情報・経営コース2年）

### ●長期インターンシップに参加した動機・きっかけ

たくさんの研修先から前橋市児童文化センターを選んだ理由は、**普段関わらない市民の方々、子供と関わることができるからです**。もちろん大学内にいても同級生を初め、先輩や後輩、先生方などといったたくさんの方々と関わることができます。大学内にいるだけだと毎日ほぼ同じ人としか関わることができません。年上の人といっても先輩や先生が限界です。インターンシップに参加することにより、大学内の生活では出来な**いたくさんの人たちと関わって自分にはない考え方を知り、自分にいい刺激を与えたいと思ったからです**。また、私は将来やりたいことや将来の方向性があまり定まっていないのでインターンシップに参加することで少しでも**自分の得意分野を増やしていき、またその中で不得意分野も見つけて将来やりたいことを見つけたいと思いました**。まだ、学生ということもあり社会人と違い失敗できるので**失敗しながらたくさんのことを学びたいと思いました**。将来、どこに就職するにおいても職場の雰囲気を知り、仕事をしているかなどを知りたいと思ったからです。



### ●インターンシップに参加して得られた気づき、経験したこと

私にとってインターンシップをしている中で、「この経験をしたから今の自分がある」と心から言えるイベントは二つあります。

一つは「**まえばし学校フェスタ 2015**」です。これは前橋市内の小中高生が日頃行っている部活動や芸術的活動を、たくさんの市民の皆様に表示してもらおうという活動です。私は児童文化センターの代表として2日間元気21で職員の方や館長さんと共に活動しました。

もう一つは「**子ども映画会**」です。これは毎週土曜日に児童文化センターで行われており、館内に訪れた小さい子から大人までたくさんの方々に日本昔話やアニメをみせ、子どもたちの知らない映画や大人たちには映画をみて懐かしくなってもらうための活動です。

この二つの活動をして気付いたことがあります。それは**1人で仕事をするには限界があるということです**。模造紙に文字を書いたり写真を貼り付ける作業を始め、部屋のレイアウトを考えたり、子ども映画会で使用する椅子を並べたりたくさん仕事をする中で気付かされました。最初は仕事というのは与えられたら1人で完璧にこなすと思い込んでいました。もちろんそれも大事なことでたくさん経験をする中で、たまには**周りの人に頼り失敗することも大切な経験だということ**を発見しました。初めて任された仕事だったので張りきっていた分、失敗したときの悔しさはこの先ずっと忘れることの出来ないことになったと思います。しかし、失敗して今までの自分の考え方に職場の方々の考えが加わり、本番では自分なりに**周りの方々からも良かったねといえる発表になったのでとても嬉しかったです**。

普段の生活と大きく変わったことは、**たくさんの市民の方と関わったことです**。大学生活の中で関わることのできる方々は限られています。しかし、前橋市児童文化センターでは平日も休日も交通天文教室やたくさんのイベントが行われているのでその中で**たくさんの市民の方々と関わることが出来ました**。その中で、**自分の考え方以外にも子どもから見た目線や市民の方々から見る目線や様々な考えを持ち発見できるようになりました**。



■インターンシップで学んだことをもとに、今後の大学生活で活かしたいこと、取り組んでみたいこと

栗原 史寛

今後の大学生活ではもっと色々なことに挑戦していきたいと思っています。また多くの失敗を通して経験を積みたいと思います。インターンシップでは物事やプロジェクトを進める中で「フォローアップ」の重要性がわかってきました。そのためには今回の長期インターンシップを通していろいろなことを学びたいと思います。

大川 佳澄

まずは、このインターンシップを思い出だけで終わらせたくないと考えています。検定など形に残ることのないインターンシップなので、自らが、証明にならなければなりません。自分は「建設会社・エアームーブ住宅で4ヶ月間働いたのだ」と胸をはって言えるように言動に責任を持ち、大学生活を送らなければならないと考えます。インターンが終わっても、怠けることなくその意味を持ち続けていきたいと思っています。今よりも確実に自由な時間が増えるので、群馬県だけでなく色々な地方について調べたり、分からないことは最後まで徹底して調査したりしていきたいと思っています。

吉田 智香

私は大人としての一般常識、マナーを学び、社会に出て恥ずかしくない女性になりたいと心の底から思いました。秘書検定の勉強を必死に取り組み、上を目指しながら、取得していきたいと思っています。さらに、いろんな場所に行き、多くの人と関わりたいです。今まで経験したことのないことなど、自分の視野を広げて行きたいです。「大学生のうちに好きなことを好きにやろうと思った方がいいよ。」と多くの人に言われました。何も考えずに遊ぶことではなく、将来につなげるための挑戦をする時間だと気付きました。嫌なこと、逃げ出したくなること、面倒なこと、口先だけで行動せずに終わってしまうこと等、私は今まで、後悔してきたことが多かったです。この大きな経験を、この気持ちを忘れずに、やりたいことを精一杯取り組んで行きたいと思っています。

藤田 真衣

今回のインターンシップを通して前橋市の人口問題について興味をもち、もっと知りたいと思いました。前橋市は他市と比較すると駅前やまちなかは過疎化状態にあり、消滅可能都市の先陣をきるほどであると思います。高崎市は特色ある県内最大の産業都市として発展し、特に駅前は多くの人で賑わっているようにも思います。

こういったことを受けて高崎市が成長した原因、前橋市の人口が一気に減少した原因と理由というものを自分なりに調べ、前橋市の街づくりに関した内容を研究としていきたいと考えます。

矢内 綾奈

前橋児童文化センターは読み聞かせたり折り紙教室だったり、たくさんの教室が実施されています。それらはボランティアで行っている人がほとんどなので私もインターンシップが終わっても何かの形で今後も児童文化センターの活動に関わって行きたいと思いました。これからの大学生活はあと2年しかないので将来に向けて検定勉強や、今回のインターンシップで見つけることの出来た自分に足りないものを身につけられる大学生活を送りたいと思いました。

## 研修受入先の担当者からのコメント

■ 実社会に出る前に、「今の役割をしっかりと担うこと」。インターンシップは終えますがこれからが実践の時、応援しています。

■ 4ヶ月間大変お疲れ様でした。いつも笑顔で、いろんなことを楽しみながらチャレンジしてくれる吉田さんを見ているとホットしたり、やる気が出たり、とにかく私たちにあってありがたい存在でした。フリーマーケットのイベントでは、手作業も多く大変だったと思いますが持ち前の明るさと吉田さんの想像力のおかげも大きな力となり、初めて開催しましたが大成功でした。当日、お客様からの質問やご案内に対して丁寧に対応する姿はとても安心して任せることができました。日々の日報でも感じることでしたが、物事を良く観察し、ご自身の状況と比較しながら様々なことを吸収しようとする姿勢は、若手社員にも良い刺激となりました。当初はおっとりしているように見えた分、建設業界というどちらかというと男性社会での経験は役に立つのか…と不安に思いましたが、とても芯のしっかりした女性でした。長い様でとても短い期間でしたが吉田さんのおかげで新鮮であり貴重な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

■ 4ヶ月間大変お疲れ様でした。直向きな姿とどのような場面でも、一生懸命取り組む大川さんの姿勢は私にとって、初心を忘れてはいけない思い出させてくれる貴重な時間でした。たくさんのイベントに参加していただきましたが、お客様に対しての配慮や気遣いを率先で行う大川さんに対して「学生さんなのにえらいねえ。」と感心されるお客様も多かったです。始めは大人しすぎてとても心配でしたが、昨年10月当初に比べ、徐々に成長する姿はサポートする私たちにとって嬉しいことであり、当社の社員にとっても良い刺激となりました。最後は新年総会での姿！！感動しました。総勢120名の前で大きな声で自信を持って自己紹介ができました。当社の社員よりも立派な挨拶だったように感じます。あつという間の4ヶ月でしたが、大変良い経験をさせていただきました。大川さん、ありがとうございました！

■ 4ヶ月間、イベント応援、地方創生業務、選挙運営補助用務など様々な業務に携わっていただきました。

何事にも前向きで相手の望んでいることを言われなくても察して行動できることは貴女の持つ強みであり、今後どのような仕事に就いたとしても、活かすことのできる能力だと思っています。将来の活躍を心から期待しています。

■ 児童文化センターは多くの子どもたちや市民が集う施設です。学校との連携で行う交天文教室や環境教室の準備から実施時の支援、後片づけまで誠実に責任を果たしてくれました。土・日のイベントのお手伝いも一生懸命取り組んでくれ、後半は毎週土曜日に「こども映画界」の運営を中心となって実施することができました。また、11月の学校フェスタでは掲示物を制作し会場での運営を大学生や中学生と一緒に行いました。職場の一員として自分の役割を果たし、周りの人たちと協力しながら実践をすすめていたことが大きな成果だと思えます。

## インターンシップを終えて

今回インターンシップを実施し学生が日々成長し、変わっていく姿をみることができ、大変嬉しく思うとともに頼もしく感じられました。正直、4ヶ月という長い研修を最後までやっていけるのか不安に思っていたところもありました。研修受入先では学生の受入に対して多様なプログラムや体験を計画していただく等、多くの皆様の温かいご支援があったことに対して心より感謝申し上げます。学生たちは研修を通して働くことの意味や自己振り返る貴重な体験ができました。例えば、研修を通して、自己を見つめ直す評価基準が豊かになり、今後の生活に幅が広がったこと、大学生活や自分の将来等を見つめ直すとともに、社会や周囲の人々にも関心をもつようになるなど、よりよく生きていこうとする意識に変化が見られるようになりました。今回のインターンシップを通し、大学生活の学びに対しての広がりや深まりができたことと思えます。学生を受け入れていただいた各企業や前橋市に対して心よりお礼と感謝を申し上げます。